

道徳通信かがわ

第24号

平成29年10月5日(木)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめる」

新学習指導要領の道徳科の目標の中の一節です。道徳的価値の大切さ、それを実現する難しさ、実現したりできなかつたりする時の感じ方や考え方の多様さを理解した上で、「自分にとっては…」と自己を見つめることが求められています。

本号では、9月21日に高松市立香東中学校で公開された3本の道徳の授業から、「自己を見つめる」ための手立てを探ってみます。

自己を見つめる —研究推進校 公開授業から—

◆第1学年「脱ぎっ放しのスリッパ」(A(2)「節度・節制」)

主人公は、「スリッパをきちんと並べる」ということについて、「ここは学校じゃないんだから…」と家では無造作に脱ぎ散らかします。一方で、宿泊学習でスリッパを脱ぎ散らかした友達の「ここは学校じゃないんだから…」という言葉が心に引っかかります。

では、自分自身はどうなのか。授業者は、生徒が学校生活と資料をつないで考えられるよう、生活場面において靴やスリッパを並べ

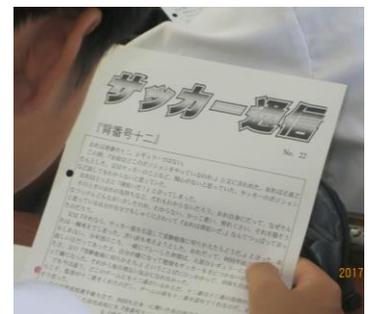


られている様子、逆に並べられていない様子の写真を提示し、揺さぶります(上写真)。そうすることで、「靴をそろえるのが大切なのは分かっているけれど、でも自分は…」。「脱ぎ散らかす人の気持ちも分かる。」と、自分の生活の振り返りを促しました。

◆第2学年「ゴール裏の青春」(A(3)「向上心、個性の伸長」)

「試合にも出られないのにサッカーを続ける必要はない。」と言う父親は、ふと「サッカー通信」に載せられている息子の作文「背番号12」を目にします。それを讀んだ父親は、息子の心の成長に涙するのでした。

授業者は、教材文中の「サッカー通信」を、実際の通信の形にして生徒に配りました(右写真)。どの生徒も、それを食い入るように読みました。教材と生徒とが一体になっていると感じた数分間でした。



教材の世界に入り込んだ生徒たちは、「息子が『球拾い』ではなく『背番号12』というタイトルの作文を書いたのはどんな思いがあったからだろう」という学習問題を自分事として捉え、学習を進めていきました。

◆第3学年「五井先生と太郎」(B(6)「思いやり、感謝」)

教材中の「優しさ」を探し、優しさについて、考えてみたい登場人物の立場から探っていました。

授業者の「どの人の優しさに最も共感できましたか。」という問いかけに対し、生徒は四色のハート型のカードから自分の考えたい立場を表している色のカードを選んで、胸ポケットにさしました(右写真)。この「選ぶ」という行為の背景には、「自分に近い優しさはどれか。」「大切にしたいのはどんな優しさか。」というそれぞれの思いが込められています。自己を表出するきっかけとなる効果的な手立てでした。

